

1969-71年、ヒロオビミドリシジミとの出会いを求めて兵庫県佐用町を継続して訪れ、周辺にキマダラモドキも産するという情報も得てはいたが一度も目にすることなく、1972年7月東京への転勤を機会にオオムラサキ目的で通った山梨の日野春でも本種には出会えないままで、関心も頭の中から消え去ったまま時は過ぎていった。

1978年に東京から高砂へと移る頃にはマイカーを駆使できる状況へと進展があり、佐用町へも二人の子供に川遊びをさせてやる目的も含めて数度は再訪問したが、ナラガシワの激減がヒロオビミドリシジミの激減と相応し、クリの花にくるチョウも多くがテングチョウで、アカシジミ、ウラナミアカシジミ、ウラジロミドリシジミをみるだけという寂しいチョウ観察地に変貌してしまったことを痛感した。

2003年6月20日、蝶友がクロヒカゲモドキに会いたいというので、1970年代にみた上月町へと案内したとき、羽化したばかりのウスイロオナガシジミを観察したところのあるコナラ林で、いきなりキマダラモドキが飛び出し、即、二人してその撮影に夢中となったのだが、実は、当時、本種がこの周辺で多く見られることは同行した蝶友から聞いていたので驚くことではなかった。しかし、本種の実物を目にするのは初めてで、特に裏面がこんなにきれいなチョウだったのかと認識を新たにした瞬間でもあり、1個体を標本化目的で捕獲したのだった。このとき、主目的のクロヒカゲモドキはまったく見られなく、生息環境が著しく変わっているのがその要因かと考えられた。



June 20, 2003 兵庫上月町

裏面

夢中で撮影した記録は、蝶友の記録に比べるとあまりに稚拙で、何とかきれいな撮影記録をとりたいと考えていた。2012年7月、姫路市近郊でオオムラサキの占有行動がみられたという情報をもとに、急峻な山道をのぼったピーク地で本種をみかけ、リベンジの機会に恵まれたが、撮影に適した挙動を見せてくれなくて満足いく結果が得られず、2013年7月7日、友人が誘ってくれたクロシジミの観察を果たしての帰り道、オオムラサキもみようと迂回してくれた佐用町のクヌギ林でようやく満足いく撮影記録がとれた。



本種は北海道から九州まで分布するが発生地は局地的で、兵庫でもどこでも見られるというチョウではない。発生地では、飛翔がそれほど敏捷ではなく、たいがい、すぐに近くの樹肌にとまる習性があるが、まだ開翅場面にでくわしたことはない。樹液にきている個体であれば開翅を期待できるかもしれない。幼虫はカヤツリグサ科、イネ科植物を食草としているとのことで、メスを捕獲して産卵させれば飼育は簡単かもしれないが、試したことはない。

June 26, 2016 西播磨の樹液食堂へ

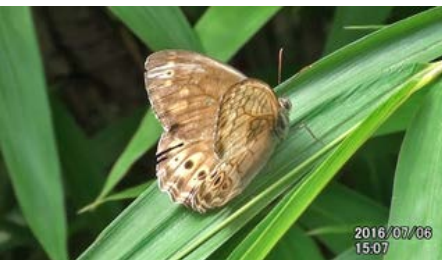
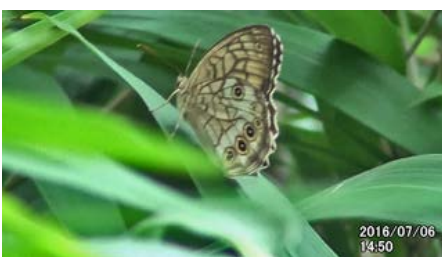
低い位置一面に繁茂する笹竹の周囲にはキマダラモドキの姿がみられ、ススキの葉上で珍しく開翅する個体を目にしながらか撮影のタイミングを逃して悔しい思いをし、帰り際に葉裏へと潜り



込んだ個体を無理な姿勢で低い位置から記録してみてもフォーカスが甘くて残念。

July 6, 2016 三度、西播磨の樹液食堂へ

樹液食堂にオオムラサキのメスが来るのを待つ間はひたすらキマダラモドキと遊ぶ。すでに翅の傷んだ個体ばかりだが、いろんなポーズで付き合ってくれた。樹液から離れると笹竹の奥深い部分へと潜り込み、フォーカス合わせがむずかしい。場所を変えると、日当りのいい笹葉上で開



翅姿勢をとる個体が出て、珍しく長い時間V字開翅状態を保ってくれる。新鮮度の低いのが残念だが、本種の開翅シーンはめったに見られないため、カメラを三脚にセットしてじっくりと撮影記録をとる。樹液が出ていない木の樹肌にとまる個体とも付き合い、オオムラサキをあきらめて帰る途中の最後の樹液をチェック中に、パトカーがやってきて「何をされているんですか」と不審者扱い？ 樹液に来ている昆虫を観察していることを説明している最中に、おそらくメスと思われる新鮮個体が出てくる。「準絶滅危惧種で、とてもきれいな個体だから・・・」とビデオ撮影にかかると「邪魔になってはいけないね」と気遣ってくれてパトカーはいなくなる。



メスなら採卵してみようか、と捕獲すると見えていなかった左前翅がかなり破れた個体で、生かして持ち帰り、チガヤを使って産卵するかどうかを見守ってみる。

July 3, 2018 西播磨の樹液食堂で再会

オオムラサキの母チョウを捕獲する目的で訪れた樹液食堂に、11:10-14:00まで粘ってもオオムラサキはやって来ず、笹竹の茂みに立ち入ってチョウを探すとキマダラモドキの♀が飛び出し、すぐに葉陰に身を隠す。そっと近づいて撮影記録をとり、その後、クロヒカゲに次いで樹液



に♂がやってくる。樹肌に垂直に近い姿勢での吸汁で、撮影アングルがよろしくないが、これも自然の記録。カメラに見下されるのが気に触ったのか、樹木の裏側へと飛び移ったのを真横から撮影して、本日の唯一の成果といいきかせ、オオムラサキの♀を連れ帰る目的を断念して撤収。